



ドクターに聞きました!

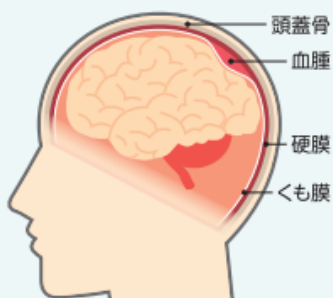
治療可能な認知症 慢性硬膜下血腫

今回のドクターは 西の土居あらいクリニック 荒井 政森 先生

ドクターインタビュー企画第二弾!今回は認知症に関連するお話です。

あれ、お父さん最近うまく言葉が出ないようだし言い間違いも増えてしまって。認知症かしら?と
思ったりすることがあるかもしれませんね。認知症は**脳の動きが衰えてしまって生活に支障を
きたす状態**です。実際の認知症はなかなかよくなることはありません。本人も家族もお辛い状態です。

ですが、多くの人が患う認知症の中には、**別な病気で脳の動きが阻害されている例**が紛れて
いることがあります。その場合にはその病気が治るものであれば、先程のうまく言葉が出ないよう
で言い間違いも増えている状態が元に戻る可能性があります。そのような別の病気で認知機能の低下を
きたしているものを認知症と区別して、**治療可能な認知症(Treatable Dementia)**と呼んでいます。



そういった治療可能な、原病の治療が必要な病気は数多くありますが、その中で皆さんに
お知らせしておきたい病気に「**慢性硬膜下血腫**」というのがあります。この病名は聞いた
ことがないという方が多いのではないのでしょうか。ですが、私の専門とする脳神経外科診療で
はよく見かける疾患です。これは**頭を打った**あと、ひと月ほどかけて**脳の表面と頭蓋骨
の間に**少しずつ染み出すようにサラサラとした茶褐色の血液混じりの**水が溜まる**病気
です。ですから「慢性」という言葉がついています。頭蓋骨の裏側には硬膜という薄く柔らかい
けれどもしっかりとした膜が張り付いていて、その硬膜と脳との間に溜まるので「慢性硬膜下

血腫」といいます。「慢性硬膜下血腫」があれば「急性硬膜下血腫」も時期が異なるだけの同じ病気かと思ったりしますが、「急性
硬膜下血腫」は**重篤な怪我**です。「急性硬膜下血腫」については今回は触れませんが、同じ硬膜下血腫でも緊急性や重篤度が
かなり違いますのでご注意ください。

慢性硬膜下血腫の診断はどうするかというと、**頭部画像検査**で行います。頭部CT検査や脳MRI検査です。頭の断面を写真
にして先程の硬膜下に溜まっている血腫を確認して行います。脳を圧迫している血腫が確認できれば、**手術**をおすすめします。
頭の手術ではありますが、**局所麻酔**で行います。頭の皮膚に4cm程度の切開を加え、頭蓋骨に1cmほどの穴をドリルで開けます。
骨の直下に硬膜があり、硬膜を切開すると溜まっている血腫が吹き出します。血腫のあるスペースにドレーンを挿入し皮膚を閉じ、
ドレーンは翌日あるいは翌々日に抜去します。数日から数週間で圧迫変形していた脳が元の形にもどり、
溜まっていた血腫のスペースが無くなり治っていきます。**それに伴い脳の動きの状態が元に戻って
くれます**。かくして認知症のような症状が治った、ということになります。

認知症は残念ながら、徐々に進行するもので、治る病気ではありませんが、なかには認知症かなと
思っても良くなってくれる病気が隠れているかもしれません。**認知症かなと思ったら脳の画像検査
を受けてみる**のもいいのではないのでしょうか。



Clinic Data

西の土居あらいクリニック 愛媛県新居浜市西の土居1-8-3

診療科 ▶▶▶ 内科・脳神経外科